

**中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想
【概要版】**

令和3年（2021年）11月
札幌市

【中島公園の変遷】

現在の中島公園が位置する土地は、豊平川の本流に接し、そこから分岐した鴨々川が流れ、藻岩山への眺望に優れる土地であったことから、**明治15(1882)年頃に地域から公園化の要望があったことに端を発し、明治20(1887)年に「中島遊園地」として整備されました。さらに、明治43(1910)年に長岡安平の設計に基づく第1期工事が行われ、公園の主要な部分が整えられました。**

その後、様々な博覧会会場として利用されるとともに、市民の行楽地として子どもたちに人気の施設などの整備が進み、さらに平成の再整備においては、都心のみどりのオープンスペースとして機能を純化させつつ、**歴史・文化・芸術が水と緑に融合する公園とすることを目標に整備が進められ、現在に至ります。**

『こどもの遊び場の役割』

●人形劇場こぐま座(1976年築)・中島児童会館(1985年築)

中島児童会館は、日本初の公設の屋内型児童厚生施設として、また、こぐま座も日本初の公設の人形劇専門劇場として、札幌の児童文化発祥の歴史を持ち、時代を越え多くの子ども達に親しまれています。



こぐま座

●子供の国

北海道大博覧会の際に計画された子供の国は、多くの人々に親しまれてきましたが、1995年に円山動物園へ移転しました。



子供の国

『中島公園平成の再整備(1995~2000年度)』

「中島公園再整備基本計画(1994年)」に基づく再整備においては、全体の目標だけでなく、エリア毎の方針も定め、整備を実施しました。

公園北口付近を含むエリアの方針は以下の通りです。

- ・札幌駅前通の南北軸の通景を受ける構築的広場
- ・鴨々川の水面と緑を介して公園の南の庭へと移行

その他のエリアでは、「開放的な庭園空間」、「広がりを持った芝生広場」といった方針で整備が進められました。



平成の再整備におけるエリア設定

【南10西3地区(現札幌パークホテル敷地)におけるMICE・ホテル施設の整備】

南10西3地区(現在のパークホテル敷地)において、本市の新MICE施設とハイグレードホテル(以下「MICE・ホテル施設」)の整備が計画されています。

当該施設は、札幌における**大規模MICE開催の中核施設とハイグレードなホテル**となり、この施設を拠点に**当地区を訪れる来街者の増加と高い経済波及効果**が期待されます。

さらに、地区全体のまちづくりの観点から、**MICE参加者が楽しめる環境の充実や施設単体では対応できない大規模なMICEの開催に必要な機能を地区全体で誘導**していくことで、**MICE・ホテル施設の整備効果を一層高める**ことが求められます。

3. 中島公園駅周辺地区のまちづくりの方針

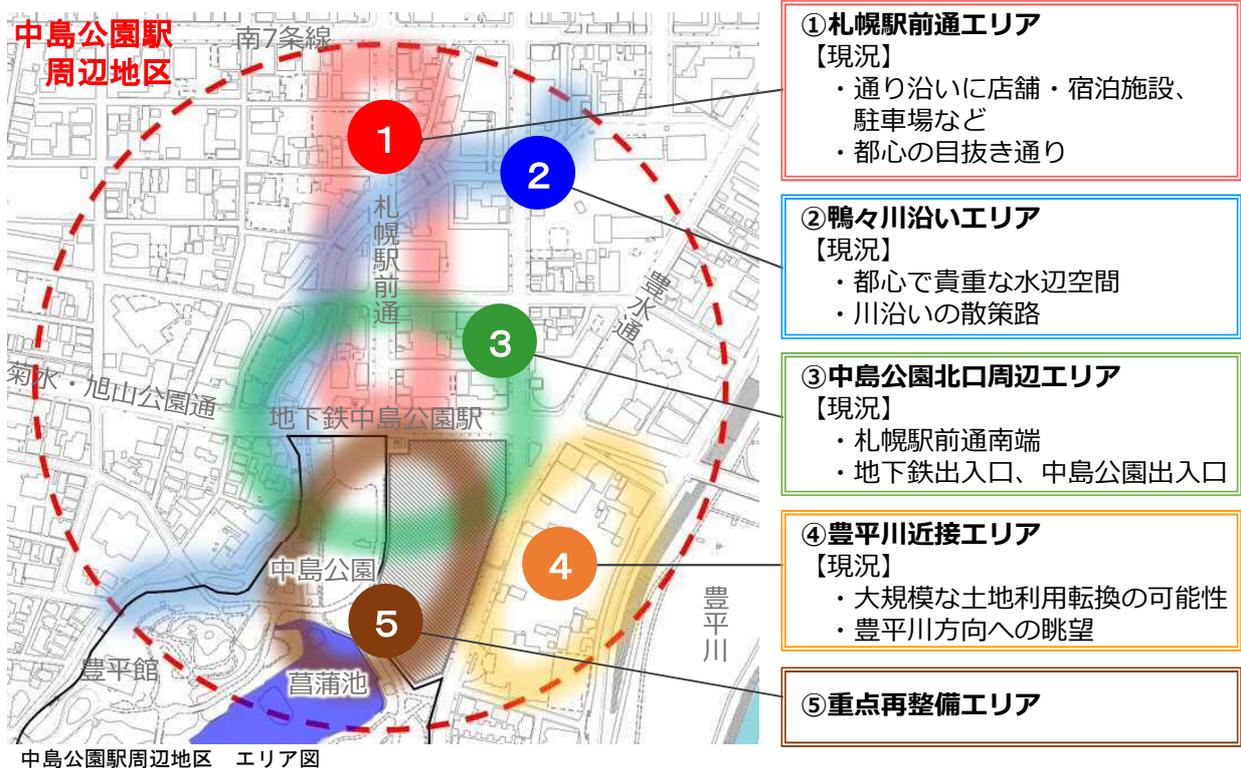
■まちづくりのコンセプト

「地域に培われた歴史・文化」と「新たな集客・交流機能」 が調和した都心南端の拠点の形成

当該地区が有する中島公園や鴨々川といった特徴的な資源を生かしたまちづくりに取り組むとともに、地区全体でMICEの開催を支える機能の誘導にも取り組みます。MICEがもたらす経済的な波及効果が魅力的な開発を誘発し、都市機能が更新されていく好循環を生み出し、市民や来街者が憩い、まち歩きを楽しみ、にぎわうまちを目指します。

■取組方針（エリア別）

当該地区内の特徴的な地域資源の存在や大規模な土地利用転換の可能性などから、5つのエリアを抽出し、より具体的な取組の方針を定めます。



【①札幌駅前通エリア】

「通りへのにぎわいの表出による南北主動線の高質化」

- (1) 沿道の建物低層部には通りに開かれた商業・交流機能などを誘導し、**通りへのにぎわいの表出**を図るとともに、目抜き通りとして、沿道の街並み景観に配慮した**象徴的な軸空間の形成**を目指します。
- (2) 鴨々川と駅前通の交差点については、滞留空間等の機能の充実により、**水辺を感じる憩いとにぎわいの交わる空間の形成**を目指します。

【②鴨々川沿いエリア】

「鴨々川などの地域資源を生かし歩いて楽しめる空間の形成」

- (1) 既存の散策路の活用や川を意識した空地等の確保を通じて、**川沿い空間の利活用**を図り、中島公園へつながるみどりのネットワークの強化や歩いて楽しめる空間の形成を目指します。
- (2) 鴨々川周辺に立地する寺社など、開拓の面影を残す個性的な歴史資源等を生かし、**札幌の歴史や文化に触れられる特徴的なまちづくり**を目指します。

【③中島公園北口周辺エリア】

「公園とにぎわい機能が融合する、地区の玄関口としての環境整備」

- (1) 地下鉄出入口や中島公園の入口を含む地区の玄関口として、すすきの方向から続く都市的なにぎわい、MICE・ホテル施設整備により強化される交流機能及び豊かなみどりによる憩いの空間が調和した**良好な空間形成、機能の誘導**を目指します。
- (2) 地下鉄中島公園駅を中心に周辺への**歩行者の回遊性の向上**を目指します。

【④豊平川近接エリア】

「MICE・ホテル施設と連携・協調する都市機能や空間の誘導」

- (1) 大規模な土地利用転換にあわせて、**新MICE施設と連携・協調するにぎわい・交流機能や質の高い宿泊機能など地区全体での大規模MICE開催を支える機能**の誘導を目指します。
- (2) 中島公園北口周辺エリアと機能や空間、デザイン面でつながりを感じることでできる建物や、豊平川方向への眺望を楽しむことでできる建物の誘導を目指します。

【⑤重点再整備エリア】

「MICE・ホテル施設と調和した魅力的な空間の創出」

MICE・ホテル施設の整備効果を高め、当地区全体の魅力向上につなげていくためには、敷地内の施設整備だけではなく、隣接する中島公園北口と一体となった空間や機能の整備を進めることが重要です。これにより、今後増加が見込まれる市民や来街者のための交流機能が高まり、そのにぎわいや活力が周辺のエリアの活性化につながります。

また、MICE・ホテル施設敷地内外で、地下鉄駅へのアクセス性の向上や駐輪機能の拡充、東側街区への歩行者動線の確保など、周辺への波及効果の大きい取組を進めることにより、当地区全体のまちづくりをけん引する役割が期待されます。

そのため、MICE・ホテル施設の整備と合わせて、再整備に向けた取組を進めていきます。

なお、MICE・ホテル施設については、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設計画等に再検討を要することとなったため、重点再整備エリアについては、今後、MICE・ホテル施設の再検討の進捗に応じて、再整備の方向を具体化していきます。

■取組方針（地区全体）

エリアを限定せず、地区全体で取り組むべき内容について、取組方針として定めます。

・地区に点在する地域資源の活用と回遊性の向上

地区に点在する地域資源を活用するために、情報発信などを行うとともに、誰もが快適にまち歩きを楽しめる歩行空間を確保し、地区の回遊性向上を図ります。

・安全安心で環境にもやさしいまちの実現

平成30年9月の北海道胆振東部地震では、当地区においても、宿泊施設に滞在できなくなった旅行者を中心に多くの帰宅困難者が発生しました。また、当地区周辺には、避難所となる小中学校が少ないことに加え、集中豪雨による浸水被害のリスクについても考慮が必要です。こうした状況を踏まえ、各宿泊施設から帰宅困難者を発生させないための取組や、防災性・事業継続性の高い施設の誘導など、強靱化に資する取組を進めます。

また、建替の際には分散電源の整備や省エネ化を図るなど、環境にやさしいまちを実現します。

・地区全体でのMICEの開催を支える機能の充実

地区全体での大規模MICE開催を支える機能の充実を図るため、民間開発の動向等を的確にとらえ、MICE開催に対応した諸室や質の高い宿泊機能を有した施設を誘導するとともに、アフターMICEや夜間観光の魅力向上に資するコンテンツ等のMICE参加者が楽しめる環境の充実を図ります。

■地区全体のまちづくりの進め方

- ・本構想を地域の関係者の方々と共有を図り、具体的なまちづくりの検討を進めます。
- ・民間開発の動向を的確にとらえ、官民連携によるまちづくりを進めます。

中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想

<発行> 令和3年(2021年)11月

<企画・編集> 札幌市 まちづくり政策局 政策企画部
都心まちづくり推進室 都心まちづくり課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話：011-211-2692 FAX：011-218-5112

URL：<https://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/project/nakajimakoenekisyuhenchiku.html>



さっぽろ市
02-B02-21-1935
R3-2-1257